

## 特集 他とかかわる力を育てる

扉ページを思いっきり活用しよう！  
地図を通して、世界をどう捉えるか

室井美稚子 (清泉女学院大学)



## つかみは OK!

「さあ、次のレッスンに入るぞー」というとき、生徒がワクワクするような導入をしたいものです。新しい課に関連のある実物を持ってきて生徒の関心を引き付けるのもよいでしょうし、音楽を流したりするのも効果的でしょう。しかし、日々忙しくてなかなか何かを用意するという時間のゆとりが持てないのではないかと思います。

そんなとき、教科書の扉や表表紙・裏表紙をもう一度、見てみてください。飾りとして載っているようなもので、授業に使えるとまでは考えていなかった写真やイラストが、案外に導入として使えるかもしれません。簡便なこれらを使って「つかみは OK!」とするには、どのように展開すればよいかをご一緒に考えてみましょう。

## オーラル・イントロダクション

ところで、今年の4月から全国で導入される小学校での英語活動では、『素地』を養うことの大切さがうたわれています。ここ1～2年の試行段階でも、小学校の先生たちは児童生徒の大変限られた語彙をふまえた上で、英語をふんだんに使って授業を始めておられます。生徒はたくさん英語を耳にすることによって、特に外国語と意識することなしに内容に注意を向けて、自然に英語に慣れ親しんで、活動している授業をたくさん目にしました。

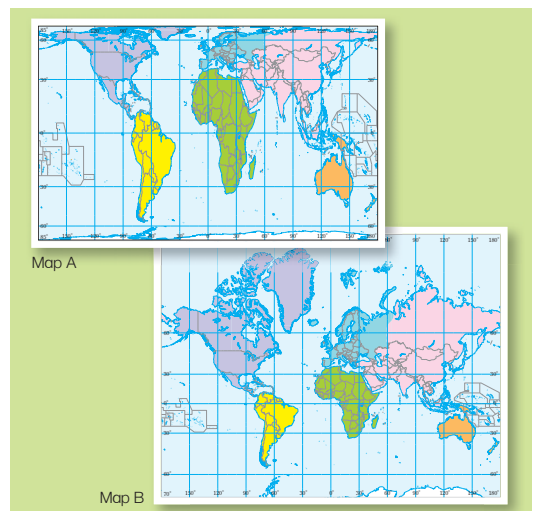
さて、英語のインプット量を増やすことの大切さは言を待ちません。生徒はたくさん聞くことによって、自然に英語が入っていきます。そのインプットのあり方は、難しすぎてもいけませんし、ちょっと想像力を必要とする程度に話すなど、さじ加減が難

しいと言えるでしょう。そうすると、ALTがいつも来てくれるわけでもありませんし、対応に個人差もあるでしょうから、結局は教科担任である自分がモデルになるのが一番です。英語の単語や文法、また内容の背景知識に関して、何が生徒にとって既知であるか、また未知であるかを熟知している貴重な指導者であるからです。

導入部分でどう生徒のスキーマ(背景知識)を活性化させ、オーラル・イントロダクションでインプット量を増やせばよいか考えてみましょう。

## 世界地図を見直そう

ここでは、2年生の LESSON 7 を例にします。本課は視覚的表現を使ったプレゼンテーションの仕方がテーマです。文法事項は、比較級と最上級です。



この課の扉には、2枚の異なるタイプの世界地図が載っています。ピーターズ図法の MAP A とメルカトル図法の MAP B です。扉ページに書かれている発問は次の2文です。

- ・ How are these maps different?
  - ・ Which map do you usually use?
- やさしい表現ながら、なんと内容に迫る的確な発問ではありませんか。

従来よく目にするメルカトル図法は、航海のために作成されたとはいうものの西欧を中心に考えられているため、北半球がぐっと大きく感じられますし、また実際そうになっています。そのため、赤道の位置も地図上の真ん中ではありません。それに対して、近年ニュースや世界のお天気などで目にするようになったピーターズ図法は、コンピュータで作成されているため、各国の面積比は正しいのです。丸い地球を平面で表せばどこかにひずみは出るというもの、この2つの地図は世界というものにかなり異なった印象を与えます。これをオーラル・イントロダクションで使わない手はありません。内容だけでなく文法項目もしっかりカバーできそうです。

### 実際に展開すると……

2年生 77 ページを生徒との応酬をイメージしながら次のように展開してみたいかがでしょうか。

- T: Please take a look at page 77. What is the title? The title of this lesson. (内容を繰り返しましょう)
- S: Good Presentations.
- T: Yes, that's right. It says "Good Presentations". (また繰り返します) In this lesson, we are going to study how to make good presentations. (改めて言い直します) By the way, what are they? (指さして)
- S: Map!
- T: Yes, you are right. They are the world maps. Where is Japan?
- S: .... (考える時間を与えましょう)
- T: In the center? (インターラク션을)
- S: No. Right! Right side.
- T: Good. (ほめましょう) Yes, Japan is not in the center. Yes, it is in the right side of these world maps. Actually, it is in the east. (東西南北を教えてもよさそうなら磁石の話日本語で補足すると、ついてこれにくい

生徒のブレイクにもなります)

- T: Now let's look at them more carefully. OK? What is the big difference? How about the size? (ヒントを出しましょう)
- S: Africa is big.
- T: Good. Africa in Map A is bigger than Africa in Map B. And... .
- S: America, ... .
- T: Which do you mean, North America or South America? (難しそうな場合は、選べるように)
- S: South America.
- T: Right. South America in Map A is bigger than that in Map B, isn't it? (相づちを打てるように)
- S: Yes.
- 1回目はこれくらいで止めておいてもよいでしょう。もしも赤道の位置が違うことに気づいた生徒がいたりすれば、次のような展開はどうでしょう。または、これを復習として用いてもよいかもしれません。
- T: What about the center? Please point at 'sekido' or the equator of each map? (動作をうながす)
- S: Map B is strange. (日本語で言うだろうからそのつぶやきを英語で表現してみせる)
- T: Right. The equator in Map B is not in the middle. Which map does Europe look bigger, in Map A or Map B?
- S: Map B, of course.
- T: Map B was made a long time ago when Europe had a lot of power.
- S: How about map A?
- T: It is a new map, using computer technology.
- 上記は、インターラク션을を心がけて展開したバージョンです。但し、本課はプレゼンテーションがテーマですので、先生が見本として、生徒の部分を省いてプレゼンテーションするというのも一手でしょう。扉などをさらに活用していただければ幸いです。